

# 真宗大谷派9条の会長浜 設立集会開催される 思想・信条を乗り越えて平和の危機に



米原市民報No.411

2014年2月9日 日本共産党米原市議団  
清水隆徳Tel.52-1969 藤田正雄Tel.55-1128  
太田幸代Tel.54-2286



2月2日長浜市「臨湖」において、真宗大谷派9条の会長浜の結成集会が、155名の僧侶や門信徒などの参加で行われました。この会は、長浜市、米原市、敦賀市の真宗大谷派の僧侶や門信徒を中心に、その設立趣旨に賛同する人々をもって構成するとしています。代表呼びかけ人の一人、米原市即往寺住職京極眞了さんが開会のあいさつがあり、事務局長の長浜市願浄寺住職對月慈照さんが「憲法改悪をめぐる現在の状況と今後の取り組み」を報告しました。そのあと、元同朋大学学長の尾畑文正氏より「真宗と憲法改悪問題」と題しての講演がありました。現在の自民党安倍政権の憲法9条に対する攻撃に対して、思想信条を乗り越え、憲法や平和を守る取り組みを強めていく必要があることが強く訴えられました。

米原市議会もこれらの呼びかけに答え、安倍政権の憲法の原理に反する特定秘密保護法の強行可決や集団的自衛権行使の解釈改憲、また憲法の改悪などの動きに対して主義主張を乗り越え会派間で協力して、反対の意思表示の必要があります。

## 集会決議の抜粋

「真宗大谷派9条の会長浜」設立集会決議

—— 平和憲法9条をまもるために、私たちの生活の場から声をあげ、  
できることから今すぐ始めよう ——

アジア・太平洋戦争の敗戦から68年が経ちました。15年にも及ぶ戦争の中で、日本国民は約300万人、アジア諸国民は2000万人もの命が奪われました。

(中略)

真宗大谷派は、1995年の宗会で、「私たちは過去において、大日本帝国の名の下に、世界の人々、とりわけアジア諸国の人たちに、言語に絶する惨禍をもたらし、佛法の名を借りて、将来ある青年たちを死地に赴かしめ、言いしれぬ苦難を強いたことを、深く懺悔するものであります」という『不戦決議』を採択しました。また、不十分なながらもその時々々の情勢に応じて懺悔の念を具体的な言葉で表現し立ち位置を鮮明にしてきました。過ちを一度と繰り返さないために、私たちの生活の場を基盤として出来る限りの行動をしていかなければなりません。憲法という国の根本的な次元で平和が崩されようとしている今、9条改悪を阻止し平和を守る取り組みを進めることは、とりわけ重要な意味を持ちます。今日ここで立ち上げた「真宗大谷派9条の会長浜」を一つの確かな足場とし、御同朋・御同行の地平に立ち、戦争のない国、世界を憶念しつつ、様々な運動と連携しながら憲法をまもる行動をさらに大きく前進させていきましょう。

2014年2月2日

「真宗大谷派9条の会長浜」設立集会参加者一同

## お知らせ

12月22日付け米原市民報で、「道路改良実績、5年間で平均9%」との議会答弁を掲載しました。当局より、確かに自治会要望の道路改良はその率であるが、道路維持については、要望に応じているとのこと。その数値は、平成23年度は改良5件・0%、維持77件37・2%、24年度は改良10件9・1%、維持は35件36・8%とのことです。